

## シャープ亀山工場で雇い止め iPhone減産影響か

有料会員限定記事

米谷陽一、松浦祐子 2018年12月4日05時18分



シャープ亀山工場＝三重県亀山市白木町幸川、朝日新聞社ヘリから、橋本弦撮影

シャープ亀山工場（三重県亀山市）で、下請け企業に有期雇用されて働いていた日系外国人労働者約2900人が今年に入り、雇い止めなどで相次ぎ退職していたことがわかった。工場をつくる米アップルの「iPhone（アイフォーン）」用部品などの減産が影響しているとみられる。外国人を含む非正社員が、雇用の調整弁となっている状況が改めて浮き彫りになった。

日系人労働者を支援する労働組合「ユニオンみえ」などが3日、東京都内で会見し明らかにした。政府は外国人労働者の受け入れ拡大に向けて、出入国管理法改正案の今国会での成立をめざしているが、同労組はまずは大量の雇い止めが生じるような環境を改善すべきだと指摘している。

同労組によると、亀山工場では5次下請け企業約10社で、日系人が2017年時点で計約3千人働いていた。全て同じグループで、各社とも1～2カ月の短期雇用で雇い、期限が来ると退職届を出させてグループ内の別の企業で雇うことを繰り返していた。社会保険料の支払い義務を避ける狙いと見られるという。

今年2月ごろから工場の生産量が減り、下請け各社は勤務時間を短くしたり、時給を切り下げたりした。これを受けて、自発的に辞める人が同月ごろから出始めた。さらに下請け企業は、辞めない人たちに雇い止めを通告。その結果、合計で約2900人が退職したと下請け企業側が労使交渉で説明したとしている。新たな仕事が見つかった人がいる一方で、生活が困窮し、車内で暮らしている人もいるという。

ユニオンみえなどは11月22日、労働者派遣事業の許可をえずに労働者を派遣していたなどとして、10社を三重労働局に告発した。

会見には15年から工場で働き始め、今年9月に雇い止めされたシマズ・シズカさん（27）も参加した。「物づくりの仕事は好き。雇い止めはショックだった」とし、今は求職中で「働く場があれば日本で働きたい」と話した。

シャープは亀山工場でつくった電子部品を米アップルなどに納めている。一部の部品は、製造ラインごと下請けに任せ、必要な労働者を集めさせている。複数の関係者によると、生産態勢の見直しで、ラインの稼働も落ちているという。

下請け約10社のうち、1社の担当者は取材に対し、雇い止めの人数などについて「今は答えられない」と話した。シャープの広報担当者は「生産状況については答えられない。下請けが雇う労働者の実態を把握しているところだ」とした。

日系を含む外国人労働者は、08年のリーマン・ショック後にも大量に解雇や雇い止めをされた。ユニオンみえの神部紅・書記次長は「企業の都合で国籍を問わず人を集めては切り捨てるのが放置されたまま、人手不足だからと、新たに外国人を入れようとするのには怒りをおぼえる」と話した。（米谷陽一、松浦祐子）